

平成二十五年の幕が明けて、いよいよ倫理経営講演会がスタートしました。各単会は準備に余念がないことと思います。

今年度は、全国六八〇ほどある単位倫理法人会すべてを、三年をかけて規程通りの百社以上にして、足腰の強い組織を構築していくと打ち出しています。

倫理経営講演会では仲間づくりはもちろん、役員が一丸となって取り組むまたとないチャンスです。役員一人ひとりが喜んでお誘いする中に、本当に求める人との出会いもあるものです。

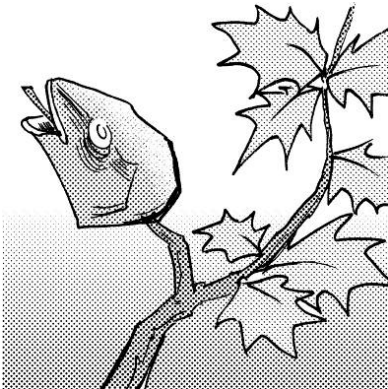
数年前から倫理法人会に入会して活動に取り組んでいるA氏。お誘いを通して学んだ体験と、誘われた経営者の家庭がよくなった体験をご紹介します。

A氏は地域の名士として顔が広く、自分が声をかければすぐに集まるだろうと思っていました。意に反してなかなかチケットを買ってくれない人がいません。

ある日、同業者仲間から「お前がいくら声をかけても、そんな勧め方では誰も参加しないぞ」と言われたのです。気になったA氏は「何がいけないのか」と聞くと、「偉そうな態度だからだ!」とバツサリ一言でした。

A氏はハツとさせられました。それは、純粹倫理の学びはしていたものの、実生活で活かしていなかったのです。そして、自分の高慢さが行動にはつきりと表われていたと反

明朗な心の実践で 倫友の輪を広げよう



絵・今谷 鉄柱

省したのです。

それから、心を入れ替えて喜びでお誘いをはじめると、不思議と必要な人との出会いが出てきました。倫理の醍醐味は「やってみて、そこからさらに喜んで取り組む中にある」と感じたA氏は、その後、ある経営者から感謝の言葉をいただいたのです。

「倫理経営講演会に誘われて参加すると、話の中で、ありがとつ」という言葉が大切だとありました。自分は家庭の中で妻や子供たちに、「ありがとつ」と言っていないかったので、家に帰ってさっそく妻や子供たちに、「ありがとつ」と実践しました。しばらく会話のない冷ややかな家庭だったのに、パツと明るい和やかな家庭になりました。ありがとつございました」

『万人幸福の琴』第八条に、次の一文があります。

真に正しい事とは、まず己が救われ、それと一しよに人が救われることでなくてはならぬ。明朗こそ、まず己が救われるともしびであり、己のかかげたこの燈火ともしびで、人もまた救われる。そして世の中が光明(こつめい)にかがやいて来る。

倫理経営講演会を通して、明朗な心でも多くの経営者をお誘いしましょう。そして自己革新をはかり、足腰の強い単会を構築して、日本創生の実現に向けて邁進してまいります。